

日本学術会議 基礎医学委員会 神経科学分科会(第25期・第3回)  
臨床医学委員会 脳とこころ分科会 (第25期・第3回)  
議事録

- 1, 開催日時 令和4年2月12日(土) 15:00~17:00
- 2, 開催場所 オンラインビデオ会議

3, 出席者

神経科学分科会

◆出席者 伊佐委員長、柚崎副委員長、大木幹事、渡部幹事、池田委員、岡部委員、岡本委員、上口委員、上川内委員、川人委員、見学委員、合田委員、定藤委員、仲嶋委員、西田委員、平井委員、渡辺委員

◆欠席者 入来委員、大隅委員、岡野委員、佐倉委員

脳とこころ分科会

◆高橋(良)委員長、林(朗)幹事、古屋敷幹事、青木委員、池田委員、伊佐委員、池淵委員、岡部委員、尾崎委員、笠井委員、萱間委員、川人委員、神庭委員、國井委員、熊谷委員、坂田委員、高橋(英)委員、内匠委員、林(由)委員、坂内委員、藤井委員、松井委員、三品委員、水口委員、南委員、村井委員、渡辺委員

◆欠席者 加藤副委員長、内富委員、神尾委員、齋藤委員、積山委員、戸田委員、寶金委員、三島委員、三村委員、吉田委員

4, 議題

【報告事項】

1. 前回議事録確認
2. 学術会議総会：科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについて
3. 「24, 25期に行われた学協会・学協会連合等との連携」についての報告
4. 日本学術会議IYBSSD 運営WG・フォーラムWG 合同WG
5. パンデミックと社会に関する連絡会議に関する報告
6. 脳科学関連学会連合について

【審議事項】

1. 合同公開シンポジウムについて
2. 「神経倫理」に関する意思表示について

## 議事

### 【報告事項】

#### 1. 前回議事録確認（伊佐委員長より）

#### 2. 学術会議総会（資料2、3）

伊佐委員長より、日本学術会議の活動状況に関して、とりわけ、「提言」に関する定義が変更され、あらたに「見解」が新設されたことが説明された。新たな定義によれば、「提言」は表出主体が「学術会議」である一方、「見解」は「部・委員会・分科会又は若手アカデミー」である点が異なり、査読のプロセスも異なる。「提言」は分科会で原案を作成し、分野別委員会での査読を経た後、対応委員会で再査読後、幹事会での承認後に公開されるのに対し、「見解」は分科会での原案の作成後、分野別委員会および部での査読を経た後、対応委員会で承認後に公開とする。従って、タイムリーに分科会として意思表示する必要がある場合には、「見解」を策定することが説明された。尾崎委員より、「提言」は、1～3部まで広い見地から議論し、さらに中長期的な視座が含有されているべきであるという補足説明が加えられた。西田委員より、「部」という比較的狭い分野で閉じた議論だけで「見解」という意思表示を作成する危険性に関して問題提起された。例えば、生命倫理などは、倫理や情報など広い分野の視座を含有するべきで、2部だけでは議論を尽くせない可能性が例として挙げられた。この問題点に関しては、重要な懸念事項として共通認識とし、臨機応変に運用していく方針となった。

#### 3. 「24, 25 期に行われた学協会・学協会連合等との連携」についての報告（資料4）

伊佐委員長より、学協会との連携調査に関して説明があった。日本学術会議は、これまで広範囲の分野において、学協会などと連携して科学者ネットワークの要として活動してきたが、これらの活動を明示したものが無かった。そこで、日本学術会議と各学協会との連携実態を把握する調査依頼があった。これに対して、神経科学分科会および脳とこころ分科会では、日本脳科学関連学会連合（脳科連）や日本生命科学アカデミーとの連携により、各種シンポジウムの開催や、マスタープランの作製等に尽力してきたことを学術会議事務局企画課へ報告したことが説明された。

#### 4. 日本学術会議 IYBSSD 運営 WG・フォーラム WG 合同 WG（資料5、6、7）

古屋敷委員より、「持続可能な発展のための国際基礎科学年2022」（IYBSSD2022）の設立の趣旨や、日本学術会議が、IYBSSDサポート機関として諮問委員会に参画し、IYBSSDの国際運営委員会と協力して、本国際年に呼応した国内の取り組みを展

開することが説明された。本分科会の活動の具体性に関しては、神経科学分科会、脳とこころ分科会、再生医療分科会の3分科会合同で「神経倫理に関する公開シンポジウム（案）」と関した市民公開講座を、2022年8月27日に開催する（仔細は、審議事項1参照）。池田委員より、本シンポジウムに限らず、各学会や「脳の世紀推進会議」などとも連携することが提案された。IYBSSDとの連携に関しては、公開イベントとすることが必要であることが、平井委員より補足説明され、学会の一部のイベントを公開シンポジウムとし、積極的にIYBSSDと連携していくこと、その際の窓口は平井委員もしくは古屋敷委員が担当することが説明された。

#### 5. パンデミックと社会に関する連絡会議に関する報告（資料8）

2021年12月1日に開催された「パンデミックと社会に関する連絡会議」に、脳とこころ分科会から加藤副委員長が出席した。加藤副委員長が本日欠席のため、会議に出席された第2部幹事の尾崎紀夫委員から代理説明があった。本連絡会議ではコロナ対応WGを設置し、主に「医療・研究体制」と「社会変革」がテーマとし議論をすすめる。神経科学分科会としては、現在は関与していないが、Long COVID-19やBrain Fog等の社会的インパクトを考えれば、メカニズム解明は必須であるため、時宜を見て参画する方向性で合意となった。その際、基礎神経科学、精神医学、産科学、小児科学との連携の重要性が提案された。

#### 6. 脳科学関連学会連合について（席上配布資料）

伊佐委員長より、脳科学産学連携諮問委員会の立上げの準備や、脳科学オリンピックに関して説明があった。

#### **【審議事項】**

##### 1. 合同公開シンポジウムについて（資料9）

神経倫理に関する公開シンポジウムを神経科学分科会、脳とこころ分科会、再生医療分科会と3合同で開催することが伊佐委員長より説明された。持続可能な学問の発展に寄与するものであるため、IYBSSDとタイアップして、2022年8月27日にオンラインで開催する。登壇者、指定討論者の人選に関して議論が行われ、神経科学研究（ヒト脳機能イメージング、オルガノイド研究等）における倫理的課題、臨床医学における介入治療（定位脳手術/脳刺激、ニューロフィードバック治療）に関する法的・倫理的課題、再生医学分野（脊髄損傷、網膜疾患）における法的・倫理

的課題などのテーマに関して、専門性や属性等のダイバーシティを鑑み、人選をすすめる。

## 2. 「神経倫理」に関する意思表示について（資料10）

「神経倫理」に関する意思表示について、「提言」および「見解」のどちらで意思表出するかが議論され、タイムリーな意思表出のために、「見解」が望ましいとの合意に至った。基礎研究、再生医学、臨床医学などの分野ごとに責任担当者を決定し進めていく。柚崎副委員長より、各学協会も類似の「指針」を作成しているため、これらを部分集合として利活用することが提案された。脳外科学的視点、PPI (Patient and Public Involvement)、着床前診断などのテーマを含めることの重要性が提案された。

以上。